

大会宣言

産業界で一般に取り扱われている化学物質は約六万物質といわれている。現代社会において我々はこれら多くの化学物質の有効利用により生活の豊かさを手にしている。

しかしながらその化学物質の中にはひとたび取り扱いを誤れば爆発・火災などの事故を招いたり中毒やがんなどの疾病を生じさせるものも少なくない。このうち特に危険・有害とされている物質については法令で特別規制がなされているがそれ以外の物質にもさまざまな危険・有害性が存在する。

その一例として印刷事業場での洗浄作業に従事する労働者が集団で胆管がんを発症した事案があげられる。この胆管がんの原因物質はかつては特別規則の物質ほど有害性が高くないとされていたが結果として長期間のばく露により健康障害が発生したと考えられている。

このほかにも特別規制のなされていない化学物質による事故・中毒・職業性疾病などの事例はあとを絶たない。

こうした背景から特別規則の物質以外でも人に対する一定の危険・有害性が明らかになっている化学物質については起こりうる労働災害を未然に防ぐために事業者及び労働者とその危険性や有害性を認識し事業者がリスクに基づく必要な措置を検討・実施するための法整備が図られたところである。

我々は化学物質によるリスクを低減するためにかかる法令の遵守はもろろんのことさらに踏み込んで積極的にリスクアセスメントに取り組むことにより職場環境の一層の改善に努めなければならない。

言うまでもなく企業の存続と発展は各企業で働く人々の支えによってはじめて実現するものでありその人々がやりがいをもって健康で安心して働ける労働環境の構築は労使の一致した目標である。

その目標達成に向けた課題の一つである化学物質の適正管理は決しておろそかにはできない。

我々は本大会を契機に

- 一、化学物質リスクアセスメントの実施体制を整えること
 - 一、危険性・有害性を積極的に洗い出して特定すること
 - 一、適正にリスクを見積もること
 - 一、優先順位を付してリスク低減措置を講じていくことを確実に実行することを通じて安全・安心な職場を築くことを堅く誓う
- 右宣言する

平成二十九年一月十二日

化学物質リスクアセスメント推進大会